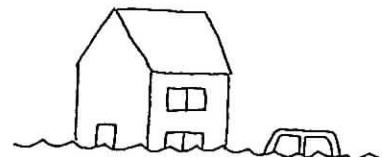


# 知ってる? 避難 { 勧告 指示 命令 } の違い

台風、津波、洪水、土砂災害、大規模火災、原子力火災などの時に被害が発生する恐れのある地域に発令される

**勧告** 強制力はないが対象地域の住民に安全な場所への避難を促す



**指示** 危険が切迫したときに発令  
直ちに避難する必要がある  
※住人が避難しなかったとしても罰則はない

**命令** 日本には「避難命令」という制度はない

**避難準備情報** 災害弱者を早く避難させるために発令される場合もある

## 気象台が発表する大雨に関する気象情報

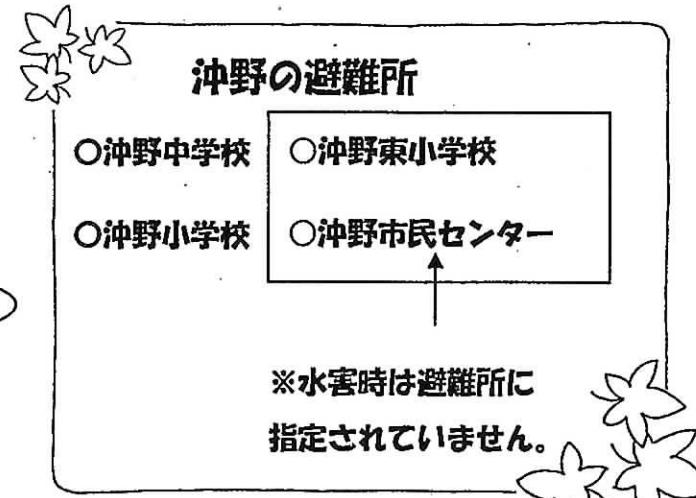
**大雨注意報**

この段階で注意を!

**大雨警報**

直ちに命を守る行動を!

**大雨特別警報**



### 編集後記

ゲームを通して考えさせられたことは、避難所運営は大変だと痛切に感じました。お互いの協力なくしては何も進まないというもどかしさを感じ、いかにすばやく判断し、行動をとるか、くり返しの訓練が必要と思いました。今後も地域の多くの方に防災に対する講習を体験していくだけるように情報を発信していきたいと思います。

おきのかわら版編集室（沖野市民センター内）  
〒984-0831  
若林区沖野7-34-43  
TEL: 282-4571  
FAX: 285-4681  
アドレス: okino@stks.city.sendai.jp

# 沖野かわら版

第六号

平成27年11月1日発行

10月1日と8日に沖野市民センターと沖野かわら版編集室主催で、「防災・減災学習会」を開催しました。

「HUG」と「KIT」を体験しましたが、各回20名の参加者達は、あの時を思い出しながら、積極的な意見を出し合い、講師の古橋信彦先生から、お褒めの言葉を頂きました。

特に1回目の「HUG」での避難所立ち上げ・運営の疑似体験の時は本番さながらに即決を求められるので、エネルギーを使い果たすくらいの熱心な姿が見受けられました。また、2回目の「KIT」でも、納得できる鋭い意見が続出し、さすが、防災に关心のある方の集まりだと感心させられました。

今回の「沖野かわら版第6号」では、この「防災・減災学習会」で学んだことをわかりやすくまとめてみました。沖野地域の防災力向上の一助となればと考えております。  
尚、参加者のご意見は次号に掲載します。

### 講師紹介

仙台防災学習研究所 SONAE  
所長 古橋 信彦

《プロフィール》  
小学校教諭時代から安全教育担当。  
仙台市社会福祉協議会時代は宮城県沖地震発生について危機感を抱き、小冊子「地震が来る前に」を作成。静岡県が開発した避難所運営ゲームなどを地域団体などへの普及活動を行っている。

## 災害に強い町内会にするには.....

### 一軒力（自助）

食料備蓄

最低3日分

ひもなし家電

石油ストーブ

懐中電灯

カセットコンロ

GAS

CO

フロス

### 六軒力（共助）

安全確認力

向こう三軒両隣

ご近所さんと一緒に確認に行く

情報力

町内会掲示板等

運搬力

旅行鞄（スーツケース）

中学生の力を借りる（地域の若者）



# HUG

避難所運営ゲーム  
H(inanzyo) U(nei) G(ame)

ハグ<sup>®</sup>

頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味

避難者を優しく受け入れるというイメージを重ね合わせて名付けられた。

## 避難者を受け入れる疑似体験

避難所運営を皆で考えるためのゲーム。

避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれ抱える事情が書かれたカードを避難所の体育館や、教室に見立てた平面図に、どれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事に対応していくかを疑似体験するゲーム。

○各グループから委員長1名、広報委員（情報、ルール等の掲示）を決める。

次に避難所での3つのルールを決める。

○読み手が150枚の避難者カードとできごとカードを読み上げ、それらを平面図に配置していく。

○ルール…避難所運営委員会で決め、必要に応じて見直しを行う

○広報…わかりやすく具体的に掲示する

特に重要な部分は赤ペンや□で囲む

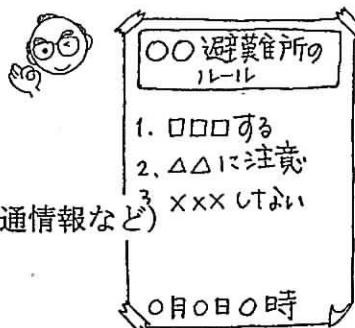
掲示した日時を記入→新しい情報に差し替える

何についての情報なのか分類して掲示する

（生活一般・医療関係・トイレ関係・提供依頼・支援依頼・交通情報など）



### できごとカードの一例



避難所にご遺体が運ばれてきたら…？

各学校の配置によるが図工室が望ましい  
校舎の1階にあって水道があり机が頑丈  
あまり人目につかずご遺族ご遺体への配慮ができる

保健室の役割

医療行為を行う場所であり、  
下痢、嘔吐、インフルエンザなどの感染症や  
ケガ人は保健室のそばの教室に収容がふさわしい

ペットと盲導犬

ペットは避難所へは入れず、校庭の樹木、遊具に繋いでおくか専用のケージに入れるなど避難所の指示に従う  
盲導犬は常に障がい者と一緒に行動



外国人は災害弱者

少しでも日本語が理解できる外国人には広報など手伝ってもらう  
宗教上の問題などにも配慮する必要がある

ホームレス

受付のそばなど常に運営委員の目の届くところに収容し  
他の避難者とのトラブルを避ける

ブルーシートを敷く理由

居住区域を明確にするだけでなく通路を確保するために必要

# KIT

キット

避難所用開設準備ゲーム  
K(atsudo) I(mage) T(raining)

## 避難者を受け入れる疑似体験

25枚の開設準備カードの中から発災時期、時刻、運営委員の数などを考慮し必要なカードを選ぶ。

（選ぶカードの枚数は決まってない）

ライフライン不通 体育館、校舎使用可

①3/11 PM3:00 発災 ②3月某日 AM1:30 発災 ③3月某日

震度6強

震度6強

津波ナシ

津波ナシ

運営委員が6名

○短時間で必要な準備をし、避難者を受け入れる、各避難所でルールを決める

・弱者優先で運営を進める

・避難者には居住場所移動があること

（避難者の体調、避難者数の増減、施設使用上の理由）

・居住組に所属し、自ら運営すること、原則としてルールは変更しない 追加可



### 開設準備カードの一例

校庭で避難者にアナウンスする

町内会ごとに整列する場合は、子ども、妊娠婦、お年寄りは  
前に並ばせ受付に報告させる  
運営委員がしている事、避難者にしながら待っていてほしいことを伝える

避難所運営用品  
(開設セット)を取りだ

ビブスや腕章を身につけ避難者が運営委員だとわかるようにする

受付

受付、掲示板を設置する

トイレ

トイレの使用の可否を確認し使用ルールを掲示  
簡易トイレを組み立てる  
プールの水をトイレ用として汲み置く

発電機

発電機を設置し照明の準備をする

備蓄品

備蓄物資数を確認し、配布の準備をする

